

大学が夏休みなどに校内の施設を公開する「オープンキャンパス」。学校概要を一方的に話す「説明型」から打って変わって、各人学んでも、独自の趣向を凝らして高校生と保護者に自校の魅力をアピールする「参加型」に様変わりしている。校風や研究内容を受験生に理解してもらい、入学後の「ミスマッチ」を防ぐとともに、少子化を踏まえ、高校生の「行きたい大学」、保護者の「行かせたい大学」に選んでもらう狙いがある。

(志田 幸)

## 変わるオープンキャンパス

鎌倉女子大学(鎌倉市)は本年度から、オープンキャンパスに3回来場した高校生を対象に、弁当包みのプレゼントを始めた。「デザインがすごくかわいい」。高校生がうれしそうに受け取っていく。

弁当包みは、暮らしや健康に関する知識を学ぶ家政学部家政保健学科の学生と、同市内で手拭い専門店やカフェを展開する「nugoo(スクウ) 鎌倉」が地域産学連携プロジェクトの一環で商品化したもの。同プロジェクトに参加する3年の小島日萌都さん(21)は「地元企業と連携し、チャレンジできる機会が大学生活であることを知っても

## 校風や研究 気軽に知って

「えれば」と期待を寄せる。母親と学内を見学する姿も目立ち、保護者も参加可能な見学バスツアーも無料で催された。

同大の入試・広報センタ―長は「高校生や保護者に何度も来場してもらえるような工夫を凝らし、学校への理解を深めてもらうことが大切」と強調する。月内は19、20日にも開く。

神奈川県横浜キャンパス(横浜市神奈川区)が6日に開催したオープンキャンパスでは、錯覚を体験するプログラム「イリュージョンライブ」が人気を集めた。知覚心理学の一種として、人間科学部人間科学科の学生が企画・運営。水平の床に寝転ぶと、傾いているような錯覚に陥る「座標の部屋」など約20の体験ブースを設置し、在学生や教員が仕組みを解説。参加した高校生や保護者から「どうして?」「不思議」と驚きの声が続々と上がった。このプログラムがきっかけで入学したという1年の

パス(厚木市)の工学部は、津田祥平さん(18)は「この分野に進もうか悩んでいたとき、錯覚の面白さに魅了され、神大で研究したい」と思った。授業が楽しい」と目を輝かせる。

用意する。広報担当者も授業の内容を気軽に楽しく知ってもらいたい」と呼び掛ける。

8月は県内でもオープンキャンパスがめじろ押し。文教大学(茅ヶ崎市)が26日、関東学院大学(横浜市金沢区)と北里大学(相模原市南区)が27日に開催。それぞれがさまざまなプログラムを用意する。



⑤来場した高校生に、プレゼントの弁当包みについて説明する在学生  
⑥在学生が企画・運営した錯覚体験。横浜市神奈川区の神奈川県横浜キャンパス